

令和3年度年報発刊にあたって

ここに、令和3年度に当研究所の各研究員が行った検査・監視・調査研究の成果等を取りまとめた京都府保健環境研究所年報第67号（2022年）をお届けいたします。

2019年に中国武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、発生から3年が経過し、4年目に入ろうとしておりますが、未だにその感染拡大は続いており、全国的に第八波に突入しました。さらに恐れていた季節性インフルエンザとの同時流行も現実的となり、京都府も季節性インフルエンザの流行期に入っております。

当研究所では、高齢者施設・障がい者施設における COVID-19 感染発生に対し、府内保健所と京都府新型コロナウイルス感染症施設内感染専門サポートチームによる支援が早期にできるよう、利用者と施設職員の広範なスクリーニング検査を可能とする体制を構築しました。これによりいっそう効果的な感染対策を可能として、施設内感染拡大とそれに伴う施設の機能低下を最小限とし、さらには重症化による医療施設への搬送をできる限り回避するよう、全所あげた対応を行っているところです。また、次世代シーケンサーによる全ゲノム解析は、府内での変異株の動向を監視するだけでなく、分子疫学解析による施設内クラスターの感染経路を特定することなどにより、医療施設等で発生したクラスターに対する感染対策にも寄与しております。

このような先の見えない中ではありますが、当研究所は京都府民の健康と安全を守るために日々最新の技術を取り入れ、迅速かつ正確な情報提供に努めております。令和3年度の年報ですが、感染症分野では、SARS-CoV-2 の疫学的特徴を検討した報告（第3報）と SARS-CoV-2 の全ゲノム解析による分子疫学に関する報告、また放射線・大気分野では、京都府内の揮発性有機化合物（VOC）と光化学オキシダント発生との関係に関する報告、さらに水質・環境分野では、ゴルフ場で使用される農薬の分析法に関する妥当性評価の計4編を掲載することができました。本年報をご高覧いただき、忌憚のないご意見・ご批判をいただければ幸いに存じます。

今後とも、皆様方のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和5年1月

京都府保健環境研究所 所長 藤田直久